

日本地球電気磁気学会会報（第108号）

1985年7月23日

日本地球電気磁気学会
東京都文京区弥生2-4-16
学会センタービル
(財)日本学会事務センター内
電話 (03)817-5801

I 第78回総会ならびに講演会開催のお知らせ

京都大学工学部のお世話で下記の通り開催されます。

1. 期間 10月15日(火)～17日(木)
2. 会場 京都教育文化センター(京都市内, 東山通り, 熊野神社バス停より徒歩3分)
この時期は京都市内の宿泊施設が大変混みます。
各自, 早目に予約して下さい。
3. 講演申込および予稿原稿送り先

今回に限り地球内部関係, 地球外部関係共に

〒153 東京都目黒区駒場4-6-1

宇宙科学研究所太陽系プラズマ研究系

鶴田 浩一郎 宛

締切り 8月24日(土) 必着

予稿原稿は, 同封用紙に黒インクまたはボールペンで丁寧にお書き下さい。用紙がさらに必要な場合は, 学会事務センターあてに直接御請求下さい。

4. ポスターセッションは行いません。
5. 講演数が急増したので運営委員会で討論した結果, 今回は以下の様な試みで行います。
講演時間は1講演当り15分とします。
6. 登壇者を論文著者の先頭(ファースト・オーサー)にして下さい。ファースト・オーサーになれるのは1人1回限りです。 ほぼ同じ内容の話をファースト・オーサーだけを取りかえ

て複数の論文として申し込むことはおやめ下さい。

7. 締切り日を厳守して下さい。締切り日以降に到着した申込みは自動的に却下します。

電話による申込みや遅延依頼は受けません。

8. 今回の大会の特別講演としては、電離層物理学研究とその発展をテーマとして前田憲一会員及び他の方々にお話をお願いする予定です。

9. 講演予稿集を早めに入手したい方は下記まで申し込み下さい。

振込先：第一勧業銀行 飯田橋支店 (普) 1289634 むつみ印刷(株) 振込金額：1,900円 振込期限：9月末日
--

10. 田中館賞候補者推薦および総会議題の申込みは9月14日(土)までに会長宛書面でご提示下さい。

送り先 〒113 東京都文京区弥生2-11-16

東京大学理学部地球物理学教室

小嶋 稔 宛

II 地球電磁気学研究連絡委員会委員候補者の投票結果

昭和60年6月に行われた選挙の結果は次の通りです。

小口 高	42票	大林 辰蔵	30票
加藤 進	36	力武 常次	28
大家 寛	35	福島 直	27
西田 篤弘	31	行武 毅	25
(次点 安川 克己 22)		小嶋 会長	
		(投票総数 80, 有効票数 80)	

III 日本学術会議関係

地球物理学からは浅田敏氏と沢田龍吉氏が会員に選出されました。

IV 新入会員

運営委員会が承認された新入会員は次の通りです。

(*印 学生会員, **印 賛助会員)

堀 尚子 (東大理)*	国際電子工業(株)**
森田 恭弘 (名大空電研)	島津製作所**
池田 慎 (武蔵大)	(株)丸文**
長谷川 博一 (京大理)	(株)ガウス**
山本 哲也 (地磁気観)	

V 学会名称について会員の皆様へのお願い

昭和22年本学会が発足して以来、今年で38年目となります。現在本学会は、正会員499名、学生会員38名の会員を擁し、その活動も国内・外で高く評価されるにいたっております。これも会員の皆様の御努力によるものですが、とりわけ本学会の創立に貢献された諸先輩の並々ならぬ御尽力に負う所多大です。

さて40年前、本学会が日本地球電気磁気学会として発足した当初、本学会の会員構成は、地球磁気・岩石-古地磁気学、空中電気、電離層とほぼ三つの分野に均等に分布しておりました。こうした研究者が結集する学会として、地球電気磁気学会の名称は、会員構成の実態をよく反映した大変整合性の良いものであったと思います。しかし、その後、昭和30年代から始まった宇宙空間、惑星科学分野の急速な発展に対応し、本学会会員の研究活動は、宇宙空間-惑星科学の分野に大きく傾斜するようになっております。因みに、人工飛翔体による地球磁場や惑星空間の研究などは、現在本学会講演会での発表の過半数を占めるにいたっております。さらに岩石・古地磁気の研究もその対象を月岩石・隕石へとひろげてきております。こうしたわけで40年前、発足当時には大変整合性の取れた“地球電気磁気学会”の名称も、現状では多くの本学会構成会員の研究テーマと若干かけ離れたものになってきているといった感じを否めません。反面、近年ますます増加しつつある宇宙空間・惑星科学の研究者、また一方ではプレート・テクトニクスの基礎としての古地磁気学に関心を寄せる研究者に、活躍の場を提供できる既存の学会として、本学会が最もふさわしいにもかかわらず、実態とややかけ離れた名称のため、こうした研究者を必ずしも本学会に充分吸収できていない、といった面も会の内外から度々指摘されております。

運営委員会では、こうした事情をきわめて深刻に受けとめ、討議を行ないました。その結果、“学会名称”一どのような名称が本学会として最もふさわしいか一に関し、出来るだけ早い機会に、全会員の意見を伺うべきだ、との結論に達しました。学会の名を変更することは学会の存立そのものに係る重大問題ですので、軽々に論ずるべきでないことは勿論です。他面かりにも伝統にこだわるあまり、学問の進歩といった事態に十分対応できない、という事態があるとすれば単に学会のみならず、日本の地球科学の将来に重大な悔いを残す、ということにもなりかねません。

こうした事情を十分考慮の上、次回総会で“学会名称”の問題につき会員の皆様に突っ込んだ御

討議をお願いしたいと思います。もし御出席出来ない方は、あるいは書面にて、会長又は運営委員会に御意見をおしらせいただくのもよろしいかと存じます。

以上、運営委員会を代表し、会員の皆様をお願い申し上げます。

1985年7月15日

小嶋 稔

Ⅶ 人事公募案内

宇宙科学研究所より下記の公募要項が発表されています。

1. 公募人員 教授 1名

2. 所属部門及び内容

惑星研究係：超高層大気物理学部門 教授

地球を含む惑星超高層大気に関する、主として飛翔体を用いた実験的研究。同研究系には、現在上記部門の他に、惑星大気物理学部門、惑星大気計測学部門があります。

3. 着任時期 昭和60年度内の成る可く早い着任を希望

4. 必要書類 (1) 略歴 (2) 研究歴

(3) 論文リスト(タイプしたもの)及び主要論文別刷 各1部

(4) 他薦の場合：推薦書、自薦の場合：本人について意見を述べられる人2名の
氏名と連絡先

5. 締 切 昭和60年9月5日

6. 宛 先 宇宙科学研究所 所長 小 田 稔

〒153 東京都目黒区駒場4-6-1 電話(代表)03-467-1111

7. 問 合 せ 不明の点、及び資料の請求は下記に願います。

惑星研究系研究主幹 伊藤富造 内線347

8. 選 考 選考は、宇宙科学研究所運営協議員会議に於て行います。

応募者中に適任者がいない場合、決定を保留することがあります。

9. その他
- 宇宙科学研究所は、気球、ロケット、人工衛星などの宇宙飛翔体を用いた観測実験による宇宙物理学研究の推進と、それら宇宙飛翔体の研究開発及びその利用を通じての宇宙工学技術の発展を図ることを目的として設置された、文部省に属する国立大学共同利用機関です。
 - 当該部門の責任者として、且つ科学衛星・月惑星探査計画等の推進に主導的役割を果たす方を希望します。
 - 封筒の表に「教授応募(推薦)書類在中」と明記下さい。

Ⅶ 共同利用研究の公募

京都大学超高層電波研究センターから下記の公募要項が発表されています。

当センターが滋賀県甲賀郡信楽町に昭和56年度より建設中であったMU(Middle and Upper Atmosphere)レーダーは、昭和59年度に完成し、昨年10月より一般公募による当センターの共同利用が開始されました。現在昭和60年度後期(60年10月~61年2月)の研究課題を公募中です。

共同利用研究の中心的設備となるMUレーダーは我国最初の中層・超高層大気観測用VHF帯大型レーダーであり、昭和58年度より部分的運用を開始しています。同レーダーは送信周波数46.5MHz、尖頭送信出力1MWのモノスタティック・パルスレーダーであり、475本の直交三素子八木アンテナとその各々に接続された固体送受信機によるアクティブ・フェーズドアレイを構成しています。この方式を用いることによって、高速度のアンテナビーム走査やアンテナの分割使用といった、従来の大型レーダーにない自由な使用が可能となっています。

現在は高度3~25kmの対流圏・下部成層圏と高度60~90kmの中間圏領域の観測が主に行われています。MUレーダーはハードウェアはほぼ完成していますが、ソフトウェア開発の多くの部分が今後の研究課題として残されており、実験的な観測が行われているにすぎません。多くの研究者の参加による共同利用が望まれます。他に共同利用に供される設備としてはアイオノゾンデ、TSS端末等があります。

利用を希望される方は、下記に申請書類等が用意されていますので御問い合わせ下さい。なお、今回の締切りは8月20日ですので御留意下さい。

〒611 京都府宇治市五ヶ庄

京都大学超高層電波研究センター事務室

TEL. 0774-32-3111

(内線 3330)